

豊岡市新文化会館 管理運営計画検討委員会 (第5回)

資 料

2024.3.19

- (1) 第4回検討委員会の確認〈貸館事業方針案について〉
- (2) 市民ワークショップの結果について
 - ①芸術文化観光専門職大学生ワークショップ（再掲） ②第4回市民ワークショップ
- (3) 市民参加と運営組織の方針案について

(1) 第4回検討委員会の確認<貸館事業方針案について>

(1) 貸館事業方針案（再掲）

- 現市民会館および市内類似施設の利用規則や、市民ワークショップで出されたご意見、また先進事例等を参考に、利用者の利便性に配慮しつつ、新文化会館の規則策定の方針を次のように整理します。

休館日

- 年末・年始(12月29日から翌年の1月3日まで)および週に一度、特定の曜日(国民の祝日と重なる場合はその翌日)を休館日とし、詳細は市内類似施設と調整します。

開館時間

- 9:00～22:00までを基本とします。この開館時間には、準備および片付けにかかる時間を含みます。
- 開館および閉館時間前後の時間外利用については、大ホールと、大ホール利用に伴う諸室の利用時のみ、必要性や施設運営上の条件等を勘案しながら柔軟な対応を検討します。

連続利用日数

- 特定の人や団体による長期間かつ独占的な利用を防ぎ、公平性を保つため、連続利用日数は原則5日間を上限として検討します。

(1) 貸館事業方針案 (再掲)

利用時間区分

- 大ホールの利用時間区分は、午前・午後・夜間の3区分とし、午前および午後、午後および夜間、全日の組み合わせ区分を設けます。
- その他の諸室の利用時間区分は、利用者の利便性や多様な利用形態を考慮して、短時間の利用にも対応できるように、1時間を単位とする時間制とします。

大ホール

その他の諸室

午前	午後	夜間	午前・午後	午後・夜間	全日	全日(1時間単位)
9:00~12:00	13:00~17:00	18:00~22:00	9:00~17:00	13:00~22:00	9:00~22:00	9:00~22:00

利用申込

- 大ホールは、原則、使用日の12か月前の月の初日から5日前まで申し込みを受け付けます。
- その他の諸室は、利用者の利便性を考慮し、原則、使用日の6か月前の月の初日から前日または当日までの申し込み受付を検討します。
- ただし、大ホールの申し込みを行う場合で、その他の諸室を併せて使用する場合は、12か月前の月の初日から受け付けます。
- 申請方法等は、現市民会館と同様に窓口での受付のほか、施設予約システムやキャッシュレス決済を導入するなど、手続きの簡素化を検討します。

大ホール	使用日の12か月前の月の初日 ~ 5日前まで
その他の諸室	使用日の 6か月前の月の初日 ~ 前日または当日まで

(1) 貸館事業方針案 (再掲)

使用料の考え方

- 現市民会館をはじめとする市内の類似施設や他市の類似施設の使用料等を参考としながら、市民の文化芸術活動へ配慮するとともに、施設の稼働率向上や歳入確保の観点も考慮して、施設内容に見合う適正な使用料を設定します。

施設使用料

- 使用料金は、利用者に一定の適切な負担を求める受益者負担の考え方を基本としますが、市内類似施設や他市類似施設の使用料等を参考に、施設内容に見合う適正な使用料となるよう設定します。
- このほか、以下の加算や割引を検討します。
 - ▷ 市民による市内利用と市外利用は異なる料金設定とします。
 - ▷ 入場料を徴収する場合は、その徴収額により、段階的な加算設定を行います。
 - ▷ 営利目的の利用の場合には加算を行います。
 - ▷ 大ホールは、土日祝日加算を行い平日とは異なる料金設定とします。
 - ▷ 大ホールの客席のうち1階のみを利用した場合の料金設定を行います。
 - ▷ 大ホールの舞台のみを使用した練習・リハーサル利用の場合の料金設定を行います。

使用料の減免

- 使用料の減免による減収は、施設・設備を維持していく上で大きな課題となっており、将来の管理運営を考え「廃止の方向」で検討します。

(1) 貸館事業方針案に関する主な意見

休館日

- 休館日の曜日は、地域性に合わせて考えるのが良い
- 市民プラザと休館日がずれている方が利用者としては助かる
- 現在、火曜が休館というのが周知されているので、このままで良いのではないか
- 土日催事を行うことが多く、木・金曜はその準備、月曜は片付けに利用する可能性があるため、休館は火曜か水曜に限られると思う
- イベント以外での利用者に配慮すると他施設とずらすことも考えられるが、イベント利用を考えると火～木曜のいずれかが休館となるのでは
- 年末年始は、需要があるならば利用できる方が良い
- 市内に人が多い年末年始こそ、自主事業を行ってはどうか

開館時間

- 9時～22時の開館時間は既に市民に定着しており、不便はないと思う
- 出演者の観点からも、一般的な開館時間であるため問題はない

利用時間区分

- 利用者の目線からすると、諸室を1時間単位で使用できるのはありがたい
- 1時間制ならば、若い世代の部活やサークルなど、隙間時間の利用が期待できるのではないか
- 1時間制の導入によって、市民の利便性は高まる

(1) 貸館事業方針案に関する主な意見

利用申込

【申込時期】

- 現施設は音や駐車場、楽屋不足の問題からホールの利用が優先され、大会議室が6か月前からの予約しかできない。ホールと同じ1年前から予約できるようにしてほしい
- どの諸室も、1年前や1年半前などもっと早くから予約できて良いのでは。他施設と時期をずらすのも良い
- 公演プログラムに次回公演の日程を載せたい場合、13か月前から予約できないと難しいということもある
- 早期から予約できるようにする場合、料金の支払いやキャンセル料についても同時に考える必要がある

【利用者の決定】

- 利用者の決定方法について、一律抽選とするのはいかがなものか。話し合いや企画書による選考なども検討する必要があるのでは
- 利用者同士の話し合いでは決着がつかない様子も見てきた。話し合いで決めるには、使う側の意識の改革が必要
- 利用者同士で落としどころを見つけられた事例もある。調整の機会を持つのは意義あることではないか。
- 施設側が利用者の選考をするのはたいへん難しいことだと思う
- 公共性の観点から、話し合いの場を設けることは良いのではないか
- 受益者負担の観点から言えば、より多くの人に参加してもらえる公益性のある催しを行うよう、利用者の市民性を育てていくことも重要
- Web予約を可能とした場合の利用者決定方法についても検討の必要がある

(1) 貸館事業方針案に関する主な意見

使用料の考え方

- 市内、市外の差があるのは良いが、市内外の判定をどのように行うのか明確にする必要がある
- 施設利用だけでなく、共催の方法についても検討の必要がある。芸術性の高い市外団体の公演を共催事業とする場合など、会場使用料の減免の考え方を定める必要があるのでは
- 共催にも様々なパターンがあるため、今後の事業展開の中で検討していくことになるだろう
- 営利目的か否かの判断基準についても、施設使用料の決定とあわせて検討が必要になる
- 施設の維持を考えると、値上げは仕方ない。ただ減免がなくなれば、文化団体は少額の入場料を徴収するなど対策を講じると考えられる
- 利用者だけでなく観客もまた受益者であることを考えると、利用者はただ「安いから使う」というだけではいけなくなる。新文化会館を使って文化の底上げを目指すならば、利用者の意識から変えていく必要がある
- 現時点では団体による一律の減免は見直すということだが、市と市民団体がどのように一緒に市の文化を盛り上げられるか考えていく上では、様々な方式での協力が考えられる



第4回委員会にて頂いたご提案や更なる検討の必要な事項については、現在、事務局にて検討を進めています。
結果は管理運営計画に反映し、追ってご報告いたします。

(2) 市民ワークショップの結果について

(2)-① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ 意見一覧 (再掲)

□ テーマ:「若い世代、専門人材は新文化会館にどう関わる？」(2023年11月27日実施)

運営

【人材育成】

- 人材育成、キャリア形成(アートマネジャー・劇場管理など／アーティスト／スタッフ)
- 学生のインターン先とする(短期・長期、通年、長期休暇)→公演の受付に入ったりテクニカルをやってみたり
- 学生の劇場プロデュース実習の実習先とする
- 課外授業の場として利用(文化施設運営論など)
- 授業やゼミなどが年間スケジュール等に関わる
- 但馬地域の劇場スタッフの育成の軸へ
- 小・中・高の社会科見学的利用
- 音楽ホールではあるがジャンル関係なくアートインレジデンスを集う
- 学生表現団体にレジデンスアーティスト指定

【学生・卒業生・市民の運営参画】

- 学生による指定管理団体の設立
- 卒業生の就職先へ
- CAT生が管理運営団体のミーティングに参加し年度計画のアイデアを出す
- 学生アルバイト
- 備品管理/機材管理の手伝い
- 事務(窓口)⇒施設予約や案内
- テクニカルスタッフ
- 制作スタッフ(アートマネジャーも含む)
- 学生プロデュースチームを作り毎年2つ企画を運営してもらう
- 市民が企画を出して選ばれたらその実現も。市民が自分たちで考える(劇場はサポート)

【他施設連携】

- 他市立文化施設との協力・連携
- 公園や近隣施設と連携

【組織】

- 館長or芸術監督の指針があると良い
- ワインソムリエをスタッフに→発表のリハやコンセプトを見て観劇後のお酒やドリンクを用意する。ドリンク付きのチケットを売る

【利便性向上】

- 何時から何時まで開放？山梨か長野で24h開放の技術センターがあった気が
- バス停を近くに設置(路線バスも止まるようにして停車頻度を高くする)
- 本番以外の日をどう運営するか セレクトショップ、バー、図書館(専門的な)

【理念】

- 文化芸術による「小さな世界都市づくり」を事あるごとに発信する
- 豊岡市の文化予算増

(2)-① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ 意見一覧 (再掲)

□ テーマ:「若い世代、専門人材は新文化会館にどう関わる？」(2023年11月27日実施)

事業

【成果発表】

- 大学生や高校生等が共同サークルを作り、毎月1日そのサークルが企画するプログラムを実施
- 授業の成果発表の場としての利用(市民に公開することも含め)
- 演劇祭中の公演場所(それに伴う学生の実習先)
- サークルなどの作品展示としての場
- 小・中・高の合唱コンクールや文化祭などでの利用
- TYT(TAJIMA YOUTH THEATER/大学の演劇公演実習)やPAP(Performing Arts Project/大学の舞台芸術公演事業)を毎年新文化会館で発表する
- PAP公演
- 自主公演・PAPなどの発表の場としての利用
- 学生自主公演の利用

【交流】

- (北九州芸術劇場のイメージ)2年間にわたって地域を学ぶ&クリエイションをするプログラム
- 大学生が小中学生と勉強や歌、ダンスなどを行う
- アクセシビリティ 障害者の方に特化した公演の開催
- Welcome Party 豊岡に移住してきた人を地元で歓迎する
- 多様な国にルーツを持つ人たちとのクリエイション
- 多文化共生を感じられるイベント(中国文化まつり、ネパール屋台)
- 豊岡市内のお見合いパーティーでの使用
- 展示イベントと一緒にフリーマーケットをする
- ワンコインで皆でご飯を食べる(スタッフ、アーティスト、客、地域)

【協働・共創】

- 市民とプロの共同制作
- 地域の芸術系団体とプロをマッチングして公演を行う企画
- 学生・市民・アーティスト公演(ジャンル問わず)
- 公演Try企画(公演をうったことないけどどうってみたい団体のサポート)
- 落書きDay 大きな白い紙を壁に貼ってその日は何を描いてもOK→その月に館に展示
- ロビーで24時間音楽祭 市民、アーティスト、学生、教員
- 劇場がやりたいこと、学生がやりたいことにお互いが協力する関係性
- 但馬旅人生活拠点という学生劇団が100年続くサークルになろうとしている。ぜひ連携を
- 特別支援団体の文化祭をプラッツだけでなく新文化会館でも開けるように

(2)-① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ 意見一覧 (再掲)

□ テーマ:「若い世代、専門人材は新文化会館にどう関わる？」(2023年11月27日実施)

事業

【見学・体験・修得】

- プロの芸術家のWSの場(学生+市民)としての利用
- 舞台技術講習会
- ピアノなどの楽器の運搬の様子を公開
- テクニカルスタッフ、制作スタッフのWS

【子ども向け】

- 親子のための演劇鑑賞会
- 放課後読み聞かせプログラム(高校生、大学生→小中)
- 子供向けの演劇スクール
- 子供の遊び場(例:じばさん→勉学、体育館→スポーツ、会館→アート特化)
- 子供の遊び場→自力でテーマパークを作る&学び場として使う
- 週1は赤ちゃんか親子のイベントを市の図書館と連携して行う
- 昔の紙芝居をする(駄菓子とかも)

【ホール催事】

- 東京塩麴など1つのアーティストを毎年呼ぶ
- 東京塩麴、空間現代など音楽だけどそのジャンルに収まっていないのを!
- ケンカラップじゃなくてアートとしてのカッコイイラッパーを呼ぶ
- 高校の演劇や吹奏楽の大会などを誘致する
- コンテストかコンクールを開く(舞踊コンテスト、アーティストラップ)
- 1人ミュージカルコンクール

【参加型・賑わい】

- 脱出ゲーム
- 館全体を使ってアミューズメントパーク化 Day?Week?
- フリーピアノコンサート のど自慢のピアノ版
- 全部屋を使った何かができたら
- かくれんぼ、鬼ごっこ(体育館と連携)
- 枕投げ、〇〇投げ
- ディスコ(みんなで) 可児市文化創造センターalaで開催している
- 回遊型で新文化会館全体を回れる演目を定期的開催
- 豊岡にはイルミネーションが無くAityの木を高校生は観に行きたい→毎年キラキラさせる、高校生のデートスポットにする
- 新文化会館に泊まる
- 柳祭りのときは花火を見るために屋上?テラス?を開放する
- 毎月イベントをする(開放含む)
- 常に小さくてもいいからイベントをする←ロビーで!一目で何かやってんなーと分かる感じにする
- 使用済み美術を破壊する→焚火
- ドラッグクイーンとメイク講座、ドッジボール

【式典】

- 豊岡市の成人式でパフォーマンス
- 結婚式
- 生前葬

(2)-① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ 意見一覧 (再掲)

- テーマ:「若い世代、専門人材は新文化会館にどう関わる？」(2023年11月27日実施)

その他

【利用促進策】

- 利用料の学割や補助
- CAT、地元高校の学生の施設料金割引
- まずはとにかく市民に使わせる。そのために、芸術団体(豊岡、但馬)に割引利用券配布
- 託児機能
- 機材貸し出しの仕組みがあると相互協力できそう
- 公演チケット提示で割引
- キッチンカー、マルシェ
- 周辺のごはん屋を教えてください
- 居酒屋からの弁当を売るスペース

【新たな居場所】

- 自習場所やサードプレイスとしての利用
- 演目がなくても図書館みたいに気軽に入れるような空間に！高校生がただただ勉強しにくるとかができると良
- 学習室としての開放
- ボードゲームを複数置いておく
- 本、漫画、写真
- ポットを置く
- 誰でも使える電子レンジと水道を置く
- 出張図書館
- 劇場レストラン(大阪市中央公会堂)
- 飲食を提供する場所・スペースがない→キッチンカー、カフェ？

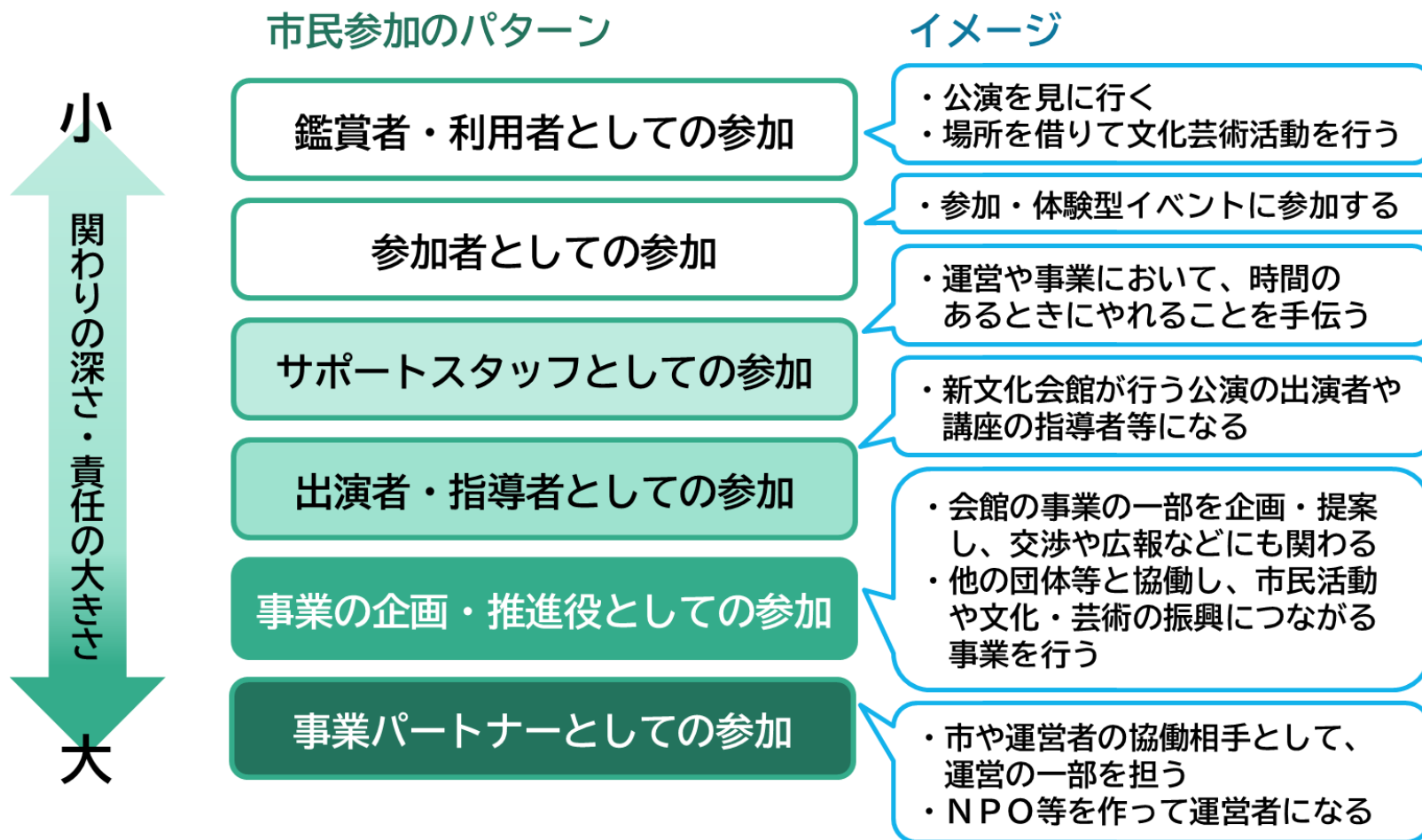
【愛着の醸成】

- デザイン性の高いグッズを作って販売
- 愛称を募集
- スタッフの名前がわかる(ネームプレート)

(2)-② 第4回市民ワークショップ 意見一覧

- テーマ:「市民参加について考えよう」(2024年2月9日実施)

ワークショップ内では、市民参加のパターンについて以下のように紹介しました。



(2)-② 第4回市民ワークショップ 意見一覧

□ テーマ:「市民参加について考えよう」(2024年2月9日実施)

新文化会館にどのように関わっていききたいか

【やりたい】

- 合唱団の発表
- JAZZイベント(企画・運営から)
- 生け花ワークショップ(講師として)
- 美術団体の合同展覧会
- 美術講座
- 11月3日(文化の日)を市民芸能祭の開催日として定着させる
- 市内各地域の文化交流(お祭りを紹介し合うなど)
- 旧市町単位でわが町の自慢

【期待】

- 若者の活躍の場を整備する

【観たい】

- K-POPコンサート
- 食イベント(おいしいものあつまれ!)
- 演劇などを手軽な価格で
- 気軽にホールに観に行けるような広報が必要
- JAZZ講座
- 地域の伝説や歴史の講座→演劇祭との交流にも

【サポートしたい】

- サポートスタッフ(参加しやすい時間、曜日で)
- 案内、受付、手助けスタッフ
- イベント企画講座

市民が参加しやすくなる仕組み

【連携の仕組み】

- 市民でつくる運営委員会
- 市内の文化施設同士のつながり
- 市内で活動する組織同士の横の繋がり

【使いやすさのための仕組み】

- 障がい者割引や、予約を取りやすくするルール
- 会館へのアクセスが難しい地域へのサポート(サポートスタッフ向け、利用者向け)

【アーティストの招致】

- 観光資源でアーティストをもてなす
- 著名な出演者を呼ぶ(マーチングバンド、合唱団など)

開館に向けて準備すべきこと

【イベント】

- 市民コーディネーターになる
- 演劇祭とのコラボ
- 愛称をつける
- 若い世代によるイベントを配信する(バンドなど)
- 楽しいイベントをする

【広報・宣伝】

- 根気よく広報を行う(紙面、SNS)
- 広く、目に付く広報を
- 若い世代にショート動画を作ってもらう
- FMなどでたくさん知らせる

(3) 市民参加と運営組織の方針案について

(3) 市民参加の方向性 (案)

- 市民ワークショップの結果を参考に、市民参加において特に重視するポイントは以下のとおりです。

市民参加の方向性(案)

- 鑑賞、体験といった気軽な市民参加を促すため、魅力ある事業企画や効果的な情報発信を行う
- 公演時のサポートや事業企画など、市民が主体的に自主事業の実施に関われる仕組みをつくる
- 開館前から市民との共創に取り組み、関係性づくりを進める
- 市民参加のスキルアップの機会を設け、将来的な人材育成に繋げる
- 多様な市民の参加しやすさを十分考慮する

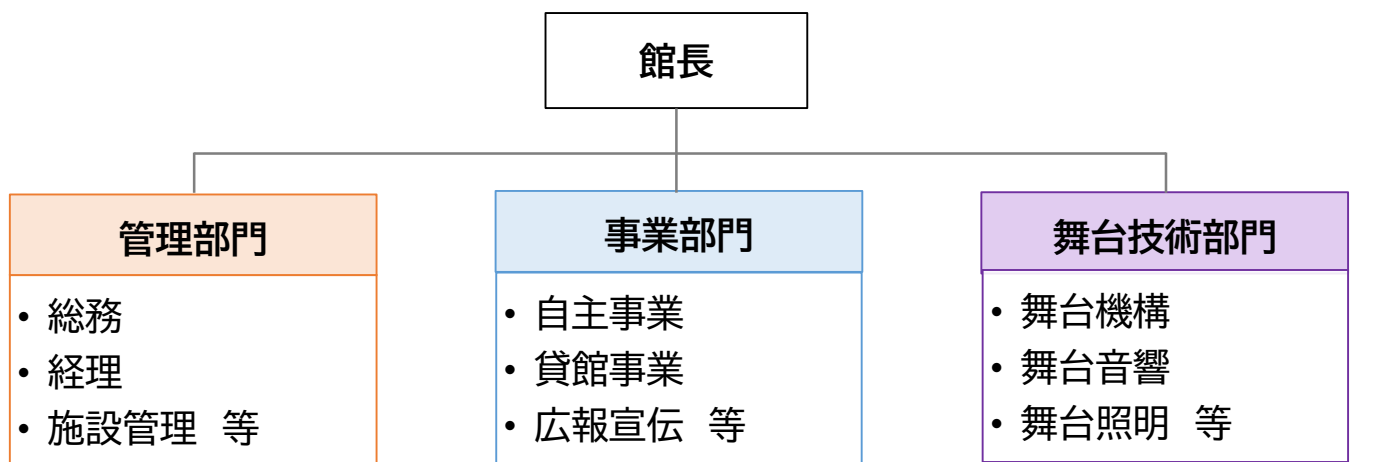
芸術文化観光専門職大学との連携(案)

- 自主事業企画の中に、若者世代の意見や企画、成果発表の機会などを取り入れる
- 大学の實習先とするなど、学生の日常的な学びの場として施設を活用する
- 学生や卒業生が管理運営に関われる、新たな連携の仕組みを構築する
- 地域の中での役割を共有し、様々な市民を対象とした交流事業に共に取り組む
- 常に新たな意見を取り入れながら、将来にわたる持続的な連携を図る

(3) 運営組織方針案

- 市民参加の方向性(案)を踏まえ、また専門人材の積極的配置を念頭に、新文化会館の運営組織体制のイメージを以下に示します。

運営者



運営委員会

※自主事業等について
市民意見を反映させる
ための検討組織

市民参加組織

- 公演サポート、自主事業企画など、市民の運営への参画協力意欲を支える会員組織の新設を検討
- プレイベント段階をテスト期間とし、市民と協議しながら具体的な活動内容を決定していく

大学連携

- 自主事業を中心に、管理運営の各分野で学生の力を発揮してもらうための連携体制を構築する
- 施設を学生の学びの場とするとともに、将来的には管理運営を主体的に担う人材の育成を目指す

地域連携

- 市内外の類似施設や、他分野との連携・協働を積極的に行い、市の中核施設としての役割を果たす
- 施設近隣だけでなく、遠方の市民へも届く取り組みを行うとともに、まち全体の文化振興を図る

連携・協働

(3) 参考：市民参画組織の事例

サポートスタッフとしての参加

■さいき城山桜ホール（大分県佐伯市）

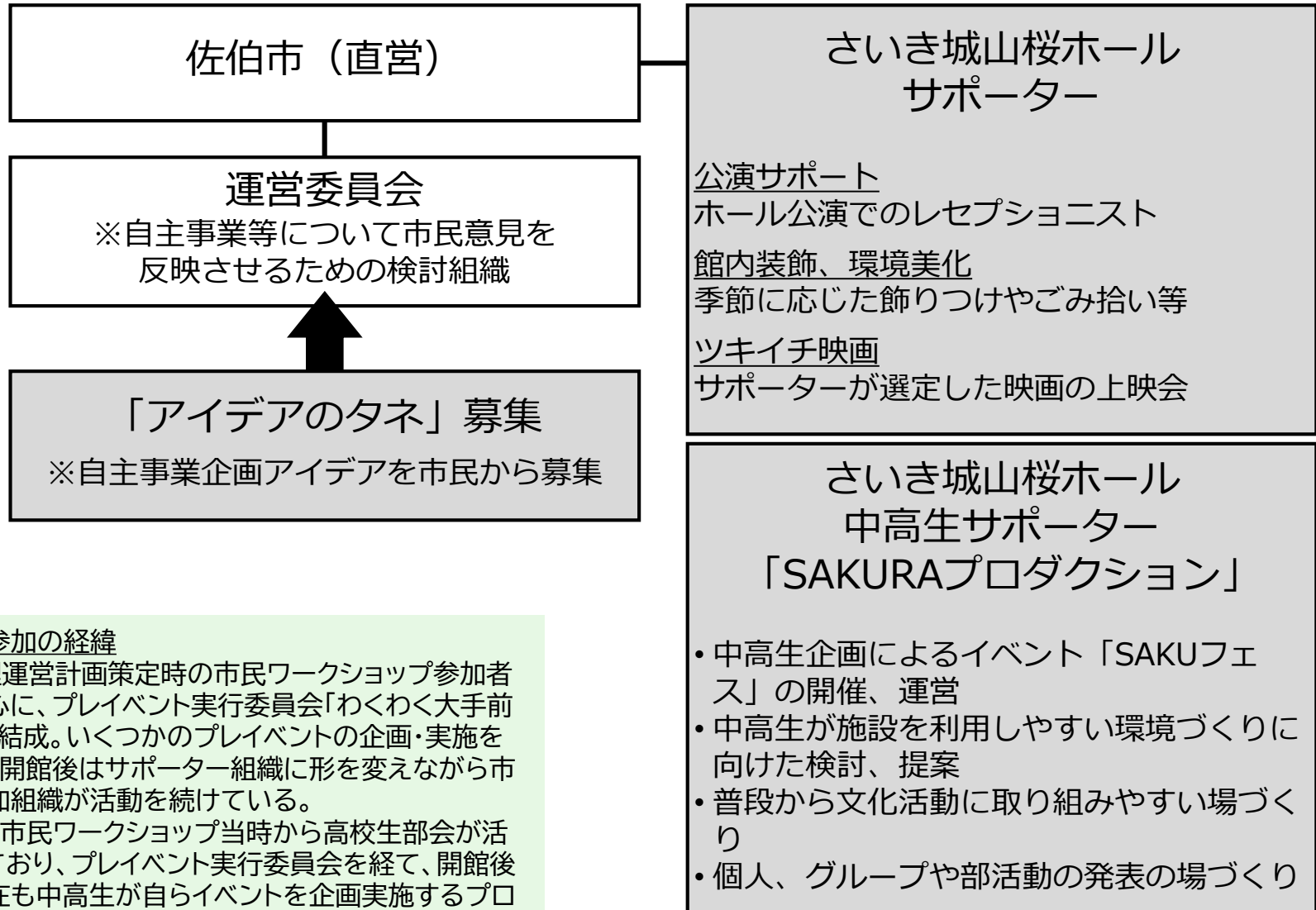
さいき城山桜ホールサポーター



- ・企画サポートグループ、公演サポートグループの2つのグループに分かれている。
- ・企画サポートグループでは、『ツキイチ映画』の企画・運営、『館内装飾』の企画・準備・設営を行う。
- ・公演サポートグループでは、イベント当日の会場運営・レセプション、チケットもぎり、客席案内等を行う。
- ・レセプション講座など各種研修は無料で受講可能。

(3) 参考：市民参画組織の事例

※網掛け（グレー）部分が市民参加組織



市民参加の経緯

管理運営計画策定時の市民ワークショップ参加者を中心に、プレイベント実行委員会「わくわく大手前隊」を結成。いくつかのプレイベントの企画・実施を経て、開館後はサポーター組織に形を変えながら市民参加組織が活動を続けている。

また市民ワークショップ当時から高校生部会が活躍しており、プレイベント実行委員会を経て、開館後の現在も中高生が自らイベントを企画実施するプロジェクトが継続している。

(3) 参考：市民参画組織の事例

事業の企画・推進役としての参加

■ 黒部市国際文化センター コラーレ（富山県黒部市）



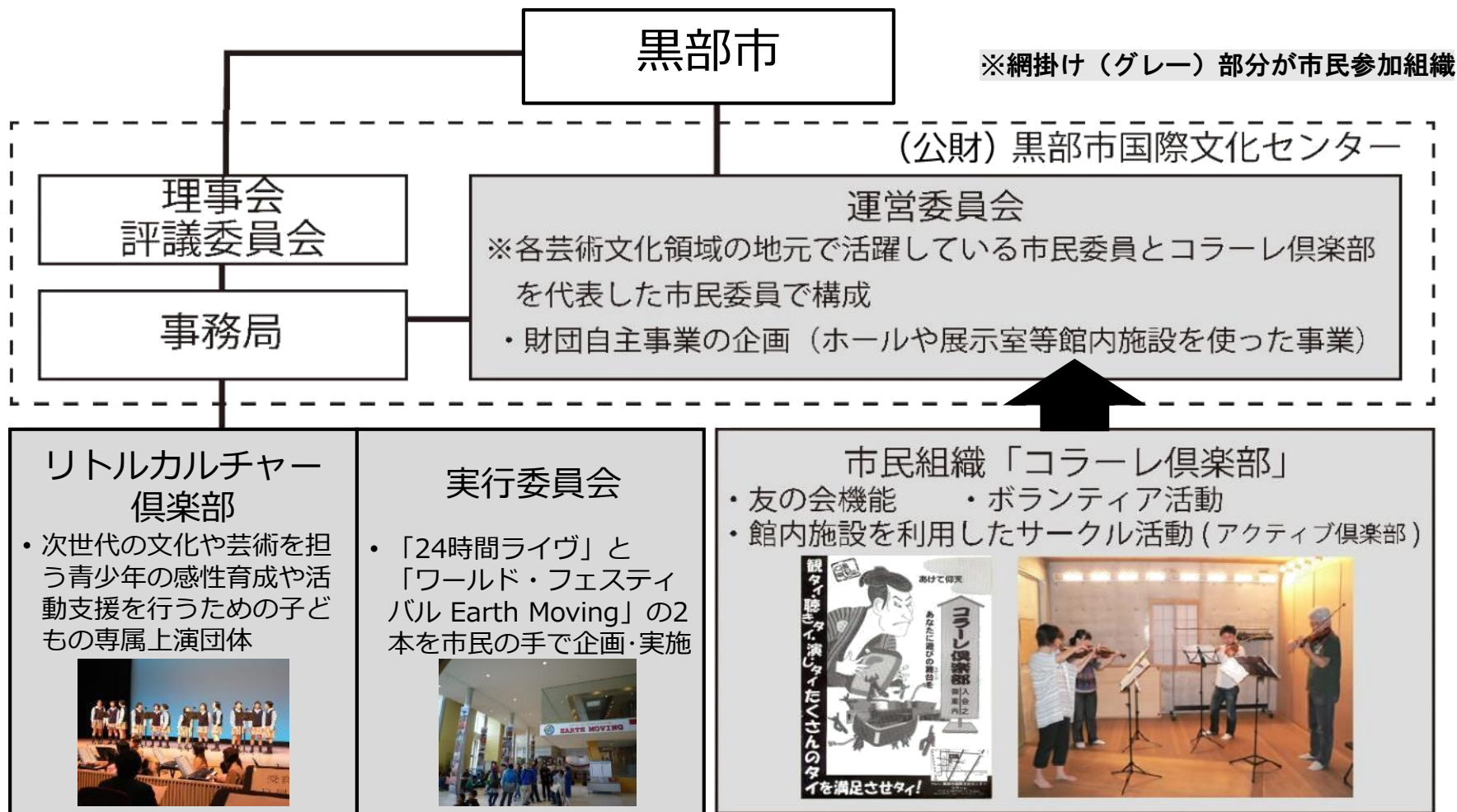
● 運営委員会

- ・ 専門家と利用者による組織。事業や運営について協議を行う。

● 実行委員会

- ・ 地域住民の有志による組織。毎年2本のイベントを最初から最後まで、全て自分たちの手で作り上げる。

(3) 参考：市民参画組織の事例



市民参加の経緯

設計者として選定された新居千秋氏の発案により、住民の意見を積極的に取り入れる取り組みが始動。市民代表の8名が参加する数多くの打合せを経て施設が整備された。この市民らは施設運営にも継続して参加し、運営者となる財団の発足に伴って「運営委員会」や「コラーレ倶楽部」を組織。現在まで続く市民主導の運営体制の基礎を築いた。

(3) 参考：市民参画組織の事例

事業パートナーとしての参加等

■ 茅野市民館（長野県茅野市）

NPO法人サポートC



基本構想から検討に携わってきた市民を中心に設立。指定管理者から一部業務を受託している。

【主な業務】

- ・ 自主事業の企画、実施/友の会運営
- ・ 情報紙の配布
- ・ 公演時のフロント、会場設営補助

事業企画会議



事業企画会議の様子

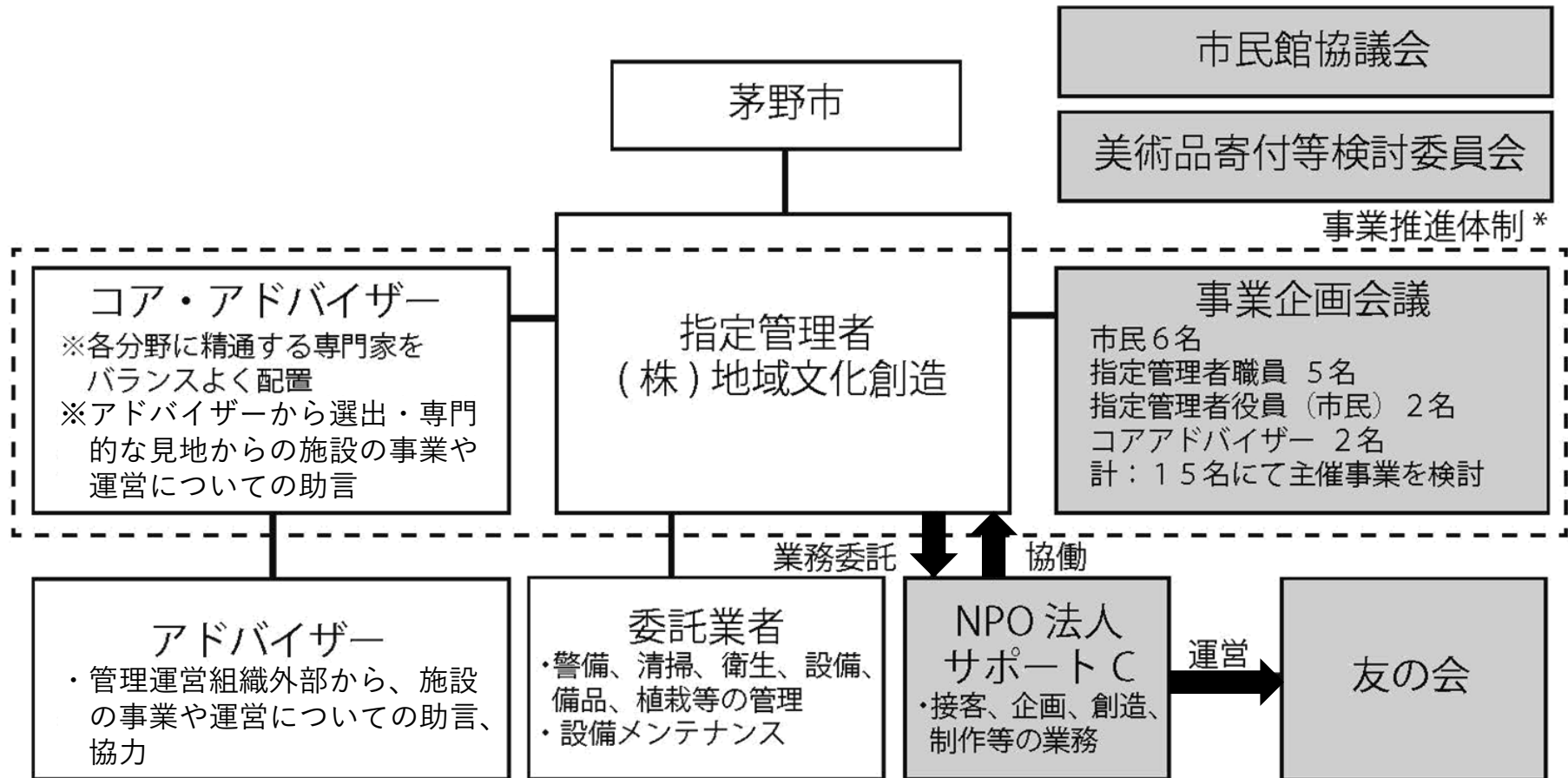


自主事業案の募集チラシ

- ・ 市民、指定管理者、アドバイザー、サポートC事務局等で構成。広く市民から募集した事業提案を基に、自主事業計画を作成している。
- ・ 市民から募集した企画が決定するまでの流れは、エントリーからプレゼン、最終決定まで約1年間。なお、プレゼンは公開型となっている。

(3) 参考：市民参画組織の事例

※網掛け（グレー）部分が市民参加組織



市民参加の経緯

施設の整備検討が始まった当初段階から、市民が積極的に計画策定に参画。数多くの会議や市民ワークショップを重ね、開館直後に市民有志がNPO法人を設立。指定管理者から一部業務を受託し、施設運営のパートナーとして現在も活動を続けている。